

## 委員からの提出意見等への対応（案）について

No.	ページ	章	該当項目	意見・指摘事項等	対応方針
1	24ページ	第2章	3上越市子ども未来応援プランの達成状況について	<p>○ニーズ調査では、保護者の半数以上が子育てに不安感や負担感を感じていると回答しているが、どのような事に不安や負担を感じているのか。</p> <p>○また、事業計画には、不安や負担感を解消する内容が盛り込まれているのか。</p> <p>○(2)計画全体の達成状況で、「子育てしやすいと感じている人の割合は前回調査(平成21年)の51.3%から2.5%減少し、53.8%となりました。」とあるが、減少であれば48.8%ではないか。</p>	<p>○ニーズ調査では、「子どもを叱りすぎているような気がする」「子育てで出費がかさむ」「自分(たち)の自由な時間が持てない」など、子育ての対する不安や経済的な負担を感じている保護者が多い傾向にあり、それらを緩和する様々な取組を第4章の基本目標1の主要施策ごとに位置づけています。</p> <p>○ご指摘のとおり、誤っていたので修正します。(誤:2.5%減少 → 正:2.5%増加)</p>
2	26ページ	第3章	1計画の基本理念	<p>○基本理念を「次代を担う子どもが健やかに育ち みんなの笑顔が輝くまち」を</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○「社会全体で次代を担う子どもを増やし、みんなの笑顔が輝くまちを目指します。」または「社会全体で時代を担う子どもを増やし、活力に満ちた上越市を目指します。」など、「子どもを増やす」という文言を入れてはどうか。</p>	<p>○当市の人口減少問題については、市の最上位計画である第6次総合計画において、子育てや雇用など総合的な観点から取り組むこととしています。本事業計画は、その取組の一つとして、社会の全ての構成員が子ども・子育て支援の重要性に対する関心や理解を深め、各々が協働し、それぞれの役割を果たすことにより、家庭を築き、子どもを生き育てるという希望が叶えられるとともに、全ての子どもたちが健やかに成長できる社会の実現を目指すものであることから、原案のままとします。</p>
3	27ページ	第3章	2計画の基本目標	<p>○基本目標3「子どもと家族を大切にできるまちづくり」を</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○「子どもと子育て家族を大切にできるまちづくり」としてはどうか。</p>	<p>○基本目標3「子どもと家族を大切にできるまちづくり」は、家庭を営んでいる人たち同士、近隣の人、行政がその家庭を大切にしていけるまちづくりを目指すという趣旨であるため、原案のままとします。</p>
4	31ページ	第4章	1-2子育てに対する経済的支援の充実	<p>○No.2妊産婦・子ども医療費助成事業 子ども医療費受給者証は、長期で使用していると擦れたり、紙がもろくなるので、ラミネート加工し免許証程度の大きさにしていただくと保管しやすい。</p>	<p>○現在、受給者証は、紙に折り目を入れてあり、二つ折りにすることで運転免許証や健康保険証と同じ大きさになるよう作成しています。また、破損や汚濁の場合は、市役所こども課、各総合事務所、出張所で再交付していますが、年間で15件程度であります。加えて、毎年、小学校・中学校に入学する方の受給者証の更新と新規発行を合わせると約5,000枚となり、コスト等の面から現時点ではラミネート加工での交付は考えていません。</p>
5	43ページ	第4章	3-2地域で子どもや家族を大切に意識の醸成	<p>○「虐待を防ぐ取組み」を設ける必要はないか。</p>	<p>○市では、子どもの権利基本計画を策定し、いじめや虐待を防止する取組を推進しています。本事業計画では、「1-4子どもの育ち支援の充実」や「3-2地域で子どもや家族を大切に意識の醸成」にそれらの取組を位置づけていますが、現在、第2期の子どもの権利基本計画を策定しており、今後、基本計画と整合を図るため、必要に応じて本事業計画に反映させていきます。</p>
6	44ページ	第4章	3-3家庭と地域の子育て力の向上	<p>○「No.6民生委員・児童委員」の取組み(事業名)に、「主任児童委員」を加えてはどうか。</p>	<p>○ご指摘のとおり、修正します。</p>
7	—	—	—	<p>○もう少し市民ニーズを探ってもいいのではないかと思います。パブコメや街頭アンケートなどで市民がどのようなことを要望し、また希望しているのか知りたい。</p> <p>○市民ニーズに市の姿勢を勘案し、方向性が決まれば、多数のサービスの中でどの事業を推進していくのか、また新たな取組みなどが見えやすくなるのではないかと。</p>	<p>○事業計画(素案)は、上越市子ども未来応援プランの評価結果やニーズ調査の結果を踏まえ作成しています。なお、ニーズ調査では、600を超える自由意見等もいただいております。今後の個別事業の内容や新たな取組などの検討に生かしていきたいと考えています。</p>

## 委員からの提出意見等への対応（案）について

No.	ページ	章	該当項目	意見・指摘事項等	対応方針
8	33ページ	第4章	通常保育事業(3歳未満児)	<p>《意見》 ①量の見込み【補正後】の3号(0-1歳)は、増加傾向にあるが、確保の内容が一定の1,040人となっている。現状でも年度途中の入園ができず、困っている保護者がいるが改善策はあるか。</p> <p>《委員の改善案》 途中入園待機児童用の園を商店街の空き店舗を利用したり、小学校の空き教室を利用したりして、小規模保育的に開園できないか。</p>	<p>○春日地区や有田地区は、児童数が多いことのほか、入園希望が集中する私立保育園が多くあることから、年度途中で希望する保育園に入園できない場合があります。その場合は近隣の保育園への入園を勧めています。また、施設に余裕があっても、保育士の確保ができず、受入れが随時できない保育園もあることから、保育士の再就職セミナーを開催するなど保育士の確保に努めます。</p> <p>○空き店舗や小学校の空き教室での小規模保育事業の実施は、認可に必要な設備基準に基づく施設整備に費用がかかることや保育士の確保などの問題から難しいと考えます。</p>
9	33ページ	第4章	一時預かり事業 ファミリーヘルプ保育園	<p>《意見》 H24実績に対し、H25実績が減少しているのは、ニーズがないからではなく、現在の制度が利用しにくいからではないか。この事業計画が「子育てに不安感、負担感を感じる人」の割合を減らしたり、「子育てしやすいと感じる人の割合」を増やすためにあるのだとしたら、一時預かりを再考すべきと考える。 子育ての不安感や負担感を取り除くには、「どうぞリフレッシュのため、一時預かりを利用して下さい」という行政からの呼びかけや、担当者への保護者が気持ちよく預けられるような対応の研修を行う必要があると考える。 また、断らないためには、確保数がまだまだ足りないので増やすことを考えていただきたい。</p> <p>《委員の改善案》 現状の保育園の枠が増えるのが一番いいが、空き店舗や空き教室、公民館などを利用して、現状の保育園以外に、より身近に施設があるのも良いのでは。これは新しい制度の小規模保育事業の応用の形でできるのでは。</p>	<p>○一時預かり事業は、保育園の設備基準に準じた施設や設備のほか、保育士も最低2人以上の配置が必要となり、開設やその後の運営には費用がかかることから、まずは、現在、市内24カ所の認可保育園やファミリーヘルプ保育園での一時預かりの実施や、ファミリーサポートセンターで会員相互の一時預かりについて周知を図っていきます。</p>
10-①	76ページ	第5章		<p>《意見》 「確保の内容が不足する区域の対応策について」では、確保の内容が不足する大町小学校放課後児童クラブの記載されていないが、対応策は必要ないか。</p>	<p>○対応策については、空教室を利用するなど小学校と協議のうえ、対応する旨を記載します。</p>
10-②	39ページ	第4章	放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	<p>《意見》 日曜日、祝日にも開設してほしいという要望は、全く反映されていないのではないかと。上越教育大学から提案があった「日曜日、祝日の小学生の居場所について一緒に検討しても良い」という話は進展があったのか。 放課後児童クラブが、日曜祝日も預かることは、「子育てしやすい」と感じる割合を増やすという目標達成のためには必要と考える。</p> <p>《委員の改善案》 ファミリーヘルプ保育園のように、まずは全市で一つ「日曜日専門の放課後児童クラブ」の開設があればいいと考える。</p>	<p>○日曜日、祝日の開設については、サービス業や、交代勤務のため、日曜祝日の勤務をされている方もいると思いますが、現時点で、放課後児童クラブの利用者から日曜祝日の開設要望は直接届いていません。 前回ご要望で、日中不在となる時に、児童クラブがあればというような方については、現状としてはファミリーサポートセンターの会員登録を行ってご利用いただきたいと思います。 なお、市では今後、子どもの放課後の過ごし方について、学校で行うライフスタイル調査などを活用して実態を把握した上で、地域で地域の子どもを育てるというような、支えあいの仕組みを検討していきたいと考えており、これに合わせて上越教育大学とも協議していきたいと思っています。</p>
11	35ページ	第4章	1-4子どもの育ち支援の 充実	<p>○「多胎児に対する支援」を設ける必要はないか。 例えば、子育て支援講座に双子や三つ子を連れて参加することは難しい。その度に、夫に仕事を休んでもらうのは難しく、参加したくても参加できないことがあると思う。子育てに対する負担感が大きい多胎児のママにこそ、講座に参加してほしいので、支援してくれる方を確保してほしい。 切れ目ない支援という観点から、そういった信頼できる人が、妊婦の時からずっと見守ってくれ、手助けをしてくれたら、子育てに対する負担感は、大分軽減されると思う。</p>	<p>○市では、産前・産後の体調不良のために家事や育児が困難な家庭や、多胎児を出産した家庭に、必要に応じてホームヘルパーを派遣する「産前・産後ヘルパー派遣事業」や、市内NPO法人が実施している、病院、健診、子育てサービス利用時等の同行サポート事業をご利用いただきたいと思います。</p>